

例会報告：2013年4月9日（晴れ）第1793回年通常例会

【続き】には地域でしっかり成功事例をつくり、地域から日本を良くしたいと考えております。私は自ら実践をして、しっかり成功事例をつかって、それを突破口にしたいという思いがあります。湘南都市構想という自らのビジョンをつくりましたので、10年後自分が政治の世界に立って行きたいと思っておりますのでこのビジョンを掲げていきたいと思っております。そしてこれを日本の地域づくりのモデルとして広げていきたいと思っております。そして最終的には、私が市役所の現場で一番問題意識を感じたこの国の法律、制度を抜本的に改革をするのが、私の人生に与えられた使命ではないかと考えている所でございます。最後になります松下政経塾で何を学んだのかと一言でいうならば、私は正に人間と志を学ぶ貴重な時間だったなと思っております。

◆ ゲスト

- 山地 裕昭様（足柄RC）
- 勝又 辰美様（足柄RC）
- 松本 俊輔様（小田原RC）
- 高井 哲也様（小田原RC）

◆ 奥様誕生日

- 大川 美保さん（4月10日）
- 金山 澄子さん（4月15日）

◆ ニコニコ箱

金山 慶昭委員

	ニコニコ箱	累計	目標
4月9日分	20,000	806,040	1,300,000

*ゲスト

山地 裕昭様（足柄RC）…ご無沙汰しております。よろしくお願ひします。

勝又 辰美様（足柄RC）…いつもお世話になります。

松本 俊輔様（小田原RC）…本日もお世話になります。よろしく。

高井 哲也様（小田原RC）…初めてメーキャップをさせて頂きました。これからも宜しくお願い致します。

*奥様誕生日

金山 慶昭さん…家内の誕生日のお花を毎年ありがとうございます。楽しみにしています。

*その他

鈴木 友徳さん…ソウルの自動車ショーに行ってきました。

清 康夫さん…①4月6・7日、当社（株）フジミの建築関係の得意先、東京～静岡迄80名の方々と宮城県名取市閑上地区の被災地を視察、5000人の内1003人が死亡、2年が過ぎ未だ1軒も建設出来ていませんでした。地震・津波の怖さをまざまざ見て来ました。メーカーの展示会場にて最新の情報を得、夜は松島の一の坊に泊まり、2日目は五大堂、松島船めぐり、円通院等見学、天気予報は悪かったけど運良く小降りの中、全て計画通り済、無事に終わりましたので少々。

②東京に住んでいる孫が、この4月より九州大分に在る立命館アジア太平洋大学に入学しましたので、少々。

中村 維孝さん…情勢の緊迫している韓国へ明日から出張です。帰って来られなかったらあととはよろしくお願ひします。



RAC

会員募集中

相応しい会員をご紹介ください！

■ ■ ■ 今後のメーキャップ情報 ■ ■ ■

-2013年4月-

- ▶ 17日(水) **小田原北** 報徳会館 12:30
「卓話:会員卓話」
- ▶ 18日(木) **小田原中** 報徳会館 12:30
「卓話:椎野 武会員/振り込み詐欺の現状について」
- ▶ 19日(金) **湯河原** ニューウエルシティ湯河原 12:30
「卓話:会員卓話」

足柄 おんりーゆー 12:30
「会員卓話/青春そして今」
- ▶ 22日(月) **小田原** 報徳会館 12:30
「卓話:地区協参加者報告/クラブ・協議会」
- ▶ 23日(火) **箱根** 宮ノ下富士屋ホテル 18:00
「夜間例会」
- ▶ 24日(水) **小田原北** 報徳会館 12:30
「卓話:会員卓話」
- ▶ 25日(木) **小田原中** 報徳会館 12:30
「卓話:クラブ研修について/クラブ・フォーラム」
- ▶ 26日(金) **湯河原** ニューウエルシティ湯河原 12:30
「卓話:会員卓話」

足柄 報徳会館 18:30 M.U.受付なし
「創立記念家族親睦夜間例会」

▶ 29日(月) **小田原** 休日休会

「卓話:・・・」

▶ 30日(火) **箱根** 5週目休会

「卓話:・・・」

-2013年5月-

▶ 1日(水) **小田原北** 休会

「卓話:・・・」

▶ 2日(木) **小田原中** 特別休会

「卓話:・・・」

▶ 3日(金) **湯河原** 休日休会

「卓話:・・・」

足柄 定款による休会

「卓話:・・・」

【小田原城北ロータリー・クラブ】

事務局：〒250-0211 小田原市鬼柳172-9
 電話：0465-37-1222 FAX：0465-37-7377
 URL：http://www.odawarajhrc.jp
 Mail：info@odawarajhrc.jp
 例会場：小田原卸センター内会議室
 創立：1976年4月2日 承認：1976年5月8日
 例会：毎週火曜日 12:30～13:30
 クラブ会報委員会
 監修：久保田 知子
 編集長：須賀 俊和
 コピーライター：大川 誠
 デザイン：小林 和彦
 フィールド：須藤 公司・小楠 雅昭

会員数：49名



国際ロータリー第2780地区

小田原城北ロータリー・クラブ

R.I. DISTRICT No.2780
 ODAWARA JOHOKU R.C.
 2012-2013
 WEEKLY BULLETIN



- 【R.I. 会長】
田中 作次
- 【R.I. 2780地区ガバナー】
菅原 光志
- 【第9グループガバナー補佐】
鈴木 悌介



- 【会長】小嶋 章司
- 【副会長】中野 明
- 【幹事】久保田 知子
- 【副幹事】大川 久弥
- 【会場監督】清 康夫

奉仕を通じて平和を PEACE THROUGH SERVICE

本日の例会：通常例会（第1794回）

会場：小田原卸センター内会議室
 日時：2013年4月16日 12:30～13:30
 司会：大川 久弥 副幹事

12:30	開会点鐘：小嶋 章司 会長 ローターソング斉唱「手に手つないで」 スピーカーおよびビジターの紹介 慶事祝福 会長挨拶 幹事報告／出席報告／委員会報告 同好会報告／ニコニコ箱
13:00	担当：指導者育成委員会 卓話：石崎 孝委員長・河野 秀雄委員 「ロータリーの職業奉仕について」
13:30	閉会点鐘：小嶋 章司 会長

ロータリー雑誌月間

4月はロータリー雑誌月間であります。ロータリーの友は、日本におけるロータリーの機関紙でありますし、ロータリークラブの正会員は、会員身分保持（会費を納める・例会に出席する・ロータリーの友を購読する）の為、友の購読を定めております。（国際ロータリー細則第20条に定められる）友の創刊は、1953年1月号からで創刊当初は発行部数3,300部でした。友は57年後の2009年7月号で、10万2,300部で通巻679号を数えています。

1953年創刊当初は横書きのスタートでしたが、1972年より縦書きと横書きに交じった雑誌と成り、横書きはRIを中心に月間記事とか、RI会長関係、財団、米山等の構成で、縦書きはロータリアンの投稿原稿を多く取り入れています。それでは、以下“そうだったのか”というおもしろいロータリーの友の変遷を書きましょう。1952年（昭和27年）4月25日、大阪市で開かれた地区大会で、次年度（1952年～53年度）から日本が2つの地区に分割される事が決定されておりました。その2つの地区を結ぶ事を期待するロータリアンが、連絡を緊密にする為の共通の機関誌の創刊が企画されました。第1回目の準備会は大阪で開かれ、大阪クラブの星野行則氏がガバナーで、同クラブの露口四郎氏が幹事役で開かれました。東京、横浜、京都、大阪、神戸の各クラブの代表者が出席し、共通の雑誌という事でしたが、東と西では雑誌に対するイメージがかなり異なっていて、西の星野氏は謄写版刷の簡単な物で良い、東では、謄写版では気軽過ぎて恒久性がない、始めからある程度きちっとした物を望み、最初の会合では具体案の作成迄は至りませんでした。【続き】

今見つめ直そう不易なるものと流行

【今後の例会・卓話スケジュール】

月23日 通常例会 12:30（クラブ協議会）
 担当：次年度執行部
 卓話：地区協議会出席者
 「地区協議会報告」



ロータリーを
実践し

みんなに
豊かな人生を

4月30日 休会

5月7日 通常例会 12:30
 担当：プログラム委員会
 卓話：西 寛会員・露木 清勝会員
 「私の10代」

5月14日 移動例会 12:30
 担当：指導者育成委員会
 卓話：施設見学会
 「大相撲五月場所観戦・ちゃんこ鍋の夕食」



例会報告：2013年4月9日（晴れ）第1793回年通常例会

会場：小田原卸センター内会議室

時間：12:30～13:30

❖ 会長挨拶

「儲けは信頼から」

小嶋 章司 会長



東京・神田に「しのだ寿司」という老舗があります。この社長は、えらい苦勞人で、こんな話をしています。誰でも物を買う時に「この店を儲けさせてやろう」と思って買ったことはあるまい。それでも「安く買ってやろう」と思ったことはあるだろう。それなら、この店に来てくれるお客さんも、「しのだ寿司」は感心だからひとつ儲けさせてやろう。というお客さんもまずあるまい。にもかかわらず店

が左前になって困ったことはない。

意地の悪い目で見れば、儲けさせたくない気持ちの中から儲かっているこの儲けとはいったい何なのだろうと思った時、彼は儲かったものを「自分のものだ、と思った瞬間、そこから商人としての道が崩れる時なのだ」と悟ったというのである。

社長は店員を研修生と呼んでいるが、その教育は言って聞かせる教育では駄目だという。

ある時10,000円の寿司を、どここの場所へ、バスが待っているから何時までに持ってきてくれという注文があったそうです。しかし、何かの手違いで、時間が遅くなって、注文した方はカンカンに怒って出発してしまい、そのあと、どうしようといって研修生が帰ってきました。引き受けた以上は責任があるということを知らない。乗用車でバスを追いかけろといえ、若い者は社長はバカだ、そんなことやったら、儲けにもなんにもならないと考えるのである。そこで社長は責任というものは、お金にかえられないということを教え、あとを追わせたそうです。箱根で追いついたといっ帰ってきた研修生は、よく届けてくれた、おまえの店は信頼できるからまた頼むよと、お客にほめられたと報告したそうです。研修生も自身で身をもって体験してはじめて、責任なり、信頼なりということをしったわけです。

儲けの哲学は信頼にありということです。それはまた人間社会そのものが信頼関係によってなりたっていると思います。

ちなみに「しのだ寿司」さんは1902年明治35年創業。

残念なことに、この社長さんはだいぶ前にお亡くなりになって、今の社長さんと電話で話しました。

「おばあ様よりお孫さんへかたりつがれて100年」

しのだ=いなり寿司 神田淡路町

❖ 幹事報告

久保田 知子 幹事



1)お手元にあります桜まんじゅうは、齋藤さんから松田の桜まつりが大盛況に終わったという事で頂きました。ありがとうございました。

2)今まで卸センターのご厚意で例会の準備をして頂いておりました佐藤さんが、3月で退職されました。テスト的に3か月間だけ富士キッチンに準備をお願いしました。ただし、お花とコーヒーに関しましては、会場監督と親睦活動委員会に担当して頂く事になりましたのでお願い致します。昼食の用意をする都合で、欠席の連絡につきましては前日の午後2時までに事務局に連絡をして下さい。

❖ 出席報告

村瀬 雅貴委員

出席報告	会員数	出席	M.U	出席率
4月9日	49(45)	41	0	88.89%
4月2日	49(46)	39	2	89.13%
3月26日	49(46)	34	0	76.09%

【欠席者】 4名

鈕持 悟、大川 裕、高橋 哲也、石橋 徹（休会）

【今回MU】 なし

【前回MU】 増加なし

【前々回MU】 増加なし

❖ Table Flower

- ガーベラ
- スイトピー
- かすみ草

ガーベラの花言葉は「希望」「常に前進」「辛抱強さ」
スイトピーの花言葉は「ほのかな喜び」「門出」
かすみ草の花言葉は「清らかな心」「無邪気」「魅力」



【続き】第2回の準備会が岐阜クラブの遠藤健三氏の世話で、1952年8月16日岐阜県長良川畔の大竹旅館で開かれ、下記の内容が決定しました。

- ・編集委員は合議制とする
- ・東京にて発行する
- ・定価は50円とするが、広告をとって100円の内容のある雑誌にする
- ・名称はロータリーの友とする
- ・横書きとする
- ・創刊は1953年1月とする

雑誌の体裁から東の活版案に成りました。

1986年3月号からカラーページが加わり、1991年7月より光線の反射をおさえるマット調の用紙に成り、2002年7月号からパソコン編集と成り、読みやすさと文字を太くし、新しい時代に合ったロータリーの友を目指しています。ロータリーの友の名称ですが第2回準備会投票で、遠藤健三氏の提案する「ロータリーの友」に決定しましたが、この名称に対して柏原孫左右衛門氏の「おつまみのピールの友からヒントを得た」との発言に一同爆笑に成ったそうですが、遠藤氏自身の後日談で「主婦の友」からヒントを得たと述べていました。

以上ですが、ロータリアンなら友を読む義務があります。今後も読み続け、良きロータリアンに成って下さる事を期待いたします。

河野 秀雄

❖ 卓話

「地域主権社会の実現」

松下政経塾 第31期生 片山 清宏様



私はつい先日3年間の研修を終えまして政経塾を卒業したばかりです。現役の塾生ではないのですが、卒業すると塾員となります。今日は3点お話をしたいと思います。

そもそも私がなぜ政経塾に入ろうと思ったのかという、志の原点。そして松下政経塾とはどんなところなのか、3年間どんな研修をしていたのか。卒業後私がどんなことを目指しているのか、将来展望。の3つのお話をさせて頂きたいと思います。

私は藤沢市で生まれ、藤沢市で育ちまし

た。実は私は小学校の時に父親を病気で亡くしており、母親一人に育てて貰ったということで、母には大変苦勞をさせたなという思いがあります。そういった中で、私は将来人のために働けるような仕事に就きたいというのがずっと頭にありました。大学3年生の頃になり就職活動をしなければならなく、どうしようかなと悩んでいた時に、それが頭の中になりました。それでご縁があり厚木市役所入所することになりました。最終的に厚木市役所に10年お世話になり、様々な経験をさせて頂きました。その中国保年金課にて4年間仕事をしました。国民年金保険という皆様ご存知の通り、会社の保険から外れてこちらの窓口に来るとか、離婚されて旦那様の保険から外れたので奥様が一人で窓口に来るとか、生活保護を受給することになって色んな手続きに来るとか、生活が大変厳しい方が来る所です。そういった一人一人に対してどうすればこの人を救ってあげられるのか、職員として一生懸命対応しておりました。しかしそれが出来ない現状にぶち当たってしまいました。市役所の現場というのは、国の法律とか制度でがんじがらめに縛られており、柔軟な対応が出来ない状況がありました。私は市民の為に働きたいという思いで市役所に入所し、大変やりがいのある仕事だと思って毎日過ごしておりましたが、現実的にはこの目の前のカウンターに座っている一人の市民も助けることが出来ないという現状に悩み続けました。これをどうすれば変える事ができるのかというように思い、最終的にはこの国の法律制度、この縛りを変えない限り現場は良くなるという思いに至りました。

しかしこの法律制度を作るというのは政治の仕事です。ですので私は政治の方に出て、この法律制度を自らの力で現場の思いを伝えて変えていけばきっと世の中は良くなるのではないかという思いに至り、3年前10年間務めた市役所を退職し、松下政経塾の門を叩いたということです。私の志は「地域主権社会の実現」です。本当に現場で困っている、非常に苦勞をしている、一人一人が幸せになって、またそれぞれ違った文化、個性がある地域をどんどん伸ばして、元気にしなければ絶対にこの日本は良くなるのだという強い思いで、松下政経塾に入塾させて頂きました。

それでは松下政経塾で私が3年間どんな研修をしてきたのかご紹介をしたいと思います。政経塾とは、一言で言うと人間と志を磨く道場である。という風に言われております。一つ研修の大きな方針として自修自得というのがあります。私も塾に入ったら色んな勉強が出来るのではないかと思って意気揚々と入ったのですが、現実とは全く逆でした。塾には専任の講師がおらず、自らが自らを学べという教えがあり、社会が君たちの先生だと。社会に入って、現場に入って、何が問題なのか、自ら問題を探して自ら解決策を考えていくのだという基本的な教えがあります。

実際にどんな研修をしているかという、毎朝6時から施設の中を掃除します。これは掃除とは言わず、早朝研修と呼んでおります。これは立派な研修で大変重要な位置を占めております。30年前、松下幸之助が塾に来る時、塾生に会うと「お前掃除はしってるか」といつも聞いたということです。

二つ目は「徳知体三位一体」これが二つ目の特徴です。政経塾では徳というのを一番前にしており、政経塾というのはスキルとか知識を身に付ける所ではなく、指導者を育てたいという松下幸之助の

思いの中で、指導者に最も大切なのは人間性である。塾生は徳を身に付けなさいという方針が30年間引き継がれているところであります。実際には体力も必要だという所があり、100km行軍といって100kmを24時間で歩けという研修もあったり、自衛隊に入って訓練を受けるとか、フルマラソンも走りましたし、富士山へも登ったりしました。私が3年間で一番印象に残っている研修は何かというと、茶道でございます。松下幸之助は日本の伝統精神を学ばずして、真の国際人にはなれない、日本の未来は語れないということで茶道・剣道・書道を行いました。私はその中の茶道から自分と向き合う時間を頂いたなと思っております。30半ばで役所を辞め入ってきて、同世代というと第一線で働いているという中で、お昼から茶道をして自分は何をしているのだろう、こんなことをしていて良いのかと、本当に悩んだ時期もありました。しかし今振り返れば貴重な時間だったと思います。それは自分に向き合う事が出来たということです。

3つ目の特徴としては現地現場主義というのがあります。小田原の報徳農場にお世話になり、毎年田植えから草取り、稲刈りまでやるという研修です。例えばPPPの議論を皆でするのですが、こういった問題を考える時も農業を1年間やり、農家のお話を聞いて自ら体験し、それを踏まえて議論をする最終的な結論に至るといったような研修でした。パナホームの工場で2週間作業研修をしたり、和歌山で3週間林業の経験をしたりしました。

松下政経塾はどういった理念の基にこういった事を行っているのかというのをご紹介したいと思います。塾と言いますと何か大きな施設で沢山の塾生がいるのではないかと言われるのですが、今はもう同期で4、5人です。どういった方針かというと「塾生・塾訓」というのがあり、これは政経塾の一番の基本的な方針を書いたものです。（パンフ3P参照）これは松下幸之助が何年かかけて一字一句検討して定めたものです。我々も常にここに立ち返って研修をしております。

政経塾は私の時は3年間、今は4年間でございます。これは前半と後半によって研修の方針が大きく変わってきます。前半は基礎課程と申しまして、全寮制で24時間365日、同期と同じ研修をします。後半の1年半、これは実践課程といい、塾生が自ら研修テーマを決めて自らヒールドを決めなさい、それぞれ塾生はバラバラになって独立をしなければいけないことになりました。それぞれ塾生は例えば外交問題ですとか教育の問題、農業の問題などを塾生が決めます。私は地域主権社会という大きな方針を掲げておりましたので、地域に入ろうと決めておりました。そこで具体的テーマを決めました。私はサーフィンをしていて海が大好きですので、海を活かしたまちづくりをテーマにしました。最初は海岸のごみ問題に着目し、ビーチクリーンをやったりしました。しかし地域を良くしたいという思いの中で環境だけで良いのかと言ったらそうではないということに気づき、地域経済、観光業、漁業、防災の問題等をしっかりやっていかないといけないと思えました。それで私は具体的に地域の活動を2年前に始めたわけです。湘南ビジョン研究会というのを地域の人40名位に集まって頂き始め、大きな目標を2つ掲げました。一つはブルーフラッグといいます。これはビーチに与えられる国際的認証基準です。これは世界では3000以上のビーチで認められているのですが、日本ではまだ1つも事例がありません。これを湘南海岸から一つ大きな目標を掲げれば観光業、漁業などが同じ方向を向けるのでは考えました。もう一つは10年後の湘南地域のビジョンを作ろうという湘南都市構想というものを考えました。これは9市町（葉山から二宮）を湘南と定義し、ごみ問題、防災問題、交通渋滞等、一つの自治体では解決できない問題を連携を取り、今まで解決できなかった広域的課題に取り組んでいこうと考えました。

私は3月に卒業しました。これからは政治の世界を目指して地道に活動しようと思っております。私は日本を良くする【続く】

